

令和4年度 鳥取県立倉吉総合看護専門学校自己評価結果の概要

項目 平均得点 (5点満点)	学校自己評価結果の概要	学校関係者評価委員会での改善の提案及び今後の課題
①学校経営 4.0	<p>○国と県の指針に沿った学校及び寮での感染予防対策を実施し、クラスターの発生もなく学校運営を行い、各学科とも学生は単位を修得し卒業・進級できた。</p> <p>○定期的な各種会議の開催（令和4年度は「寄宿舍審議委員会」を立ち上げた）により、学校運営に関する検討事項の意見交換や情報共有を行った。学校関係者評価委員会も対面で開催した。</p> <p>○適所の人材配置のためには継続して人員確保が課題である。</p>	<p>・コロナ禍、感染予防対策を実施しながらの学校運営は評価できる。</p>
②教育課程・ 教育活動 4.0	<p>○第1看護学科及び助産学科は新カリキュラムの運用が滞りなく実施できた。学生にアンケート調査を行い評価・再検討にも繋げた。</p> <p>○第2看護学科はR5年度に新カリキュラムとなるため、教育理念、教育目標と科目との整合性を図り、地域性を踏まえた教育内容の検討と講師を依頼して教育課程変更承認申請を行い承認された。</p> <p>○コロナ禍の影響で実習に制限が加わっても、出来るだけ実習施設と連携を図りながら学内実習を行った。また、一部、実習受け入れの中止の施設が生じた際は、実習施設を変更して学生の受け入れ調整、実習内容及び時期の変更などを行ない、実習到達目標の達成と実習単位修得に繋げた。第1看護学科の新規実習施設を開拓し、実習施設変更承認申請書を提出し承認された。</p>	<p>・新カリキュラムの評価を基に、時代のニーズと地域性を踏まえた教育内容の更なる充実を図る。</p> <p>・実習施設の変更や新規施設の開拓など、コロナ禍での実習目標の達成や単位修得に向けた調整は評価できる。引き続き、状況に応じて適切に対応していく。</p>
③入学・ 卒業対策 4.0	<p>○コロナ禍により中止していたオープンキャンパスをオンラインで開催した。82名の参加があり、アンケート結果は概ねよい結果であった。</p> <p>○県内すべての高等学校及び看護師・准看護師養成施設すべてに電話訪問を実施し、志願状況の確認と入試案内、本校のPRを行った。また、進路相談会への参加及び看護協会等関係団体への資料設置なども行った。</p> <p>○一般入学試験において、コロナ陽性の受験生（第1看護学科）に追試験を実施した（2名受験し1名が入学）。また推薦入学試験において、助産学科の指定校を1校追加、第2看護学科は募集人員の増加と推薦要件を拡充した。一般入試においても第2看護学科は学科試験科目（コミュニケーション英語Ⅰ）を減じ、志願しやすい内容とした。助産学科、第2看護学科とも志願者数は増加した。</p> <p>○国試合格に向けて、年度計画に基づいた国家試験対策の実施と模試結果に基づく個別指導を実施した。国家試験の合格率は3学科とも100%であった。</p> <p>○県内出身者の県内就職率は85.4%であった。県外出身者2名が県内に就職した。既卒者の相談には随時対応している。</p>	<p>・オープンキャンパス開催や学校のPR活動、入試の検討により、志願者増加に繋がれたことはよかった。少子化に加え大学進学を希望する学生が増加する中、入学生確保の検討を継続する。</p> <p>・3学科とも国家試験合格100%とよい成果であり、学校のPRに繋がる。実習施設の充実や卒業生の活躍なども魅力となる。現代の若者の特性も加味しながら、SNSなどのPR活動を教職員一丸となって検討していく。</p>
④学生生活 への支援 3.2	<p>○学生の定期面談の結果を教員間で情報共有した。また、必要時スクールカウンセラーに繋げて支援の方法を助言してもらう等の対応を行った。</p> <p>○修学支援新制度の機関要件を県に申請し、令和4年度更新が認められた。授業料減免と給付型の奨学金を活用できた。</p> <p>○進学・就職支援では、外部講師による接遇研修及び学内講師による小論文の添削指導や面接指導等を行った。</p> <p>○ボランティアはコロナ禍で休止。サークル活動に対して、担当教員の配置や後援会からの活動費を助成する体制などがある。</p>	<p>・有意義な3年間となるよう、外部との交流なども含めた学生生活の充実に向けた支援（体制）作りを積極的に行う。</p> <p>・ボランティア活動の制限があったが、学校PRと考えて推奨していく取組みの検討が必要か。</p>

<p>⑤管理運営・ 財政 4. 0</p>	<p>○予算の事業執行については、コロナ対策に伴う遠隔授業への変更等により講師旅費等に不用額が生じたが、減額の補正予算を組み適正に処理できている。</p> <p>○個人情報保護方針、個人情報保護取り扱い規定は学生便覧に掲載している。</p> <p>○学生の個人ノート、成績一覧などのファイルは、教務室内の鍵付きキャビネットに保管管理している。</p> <p>○感染症対応マニュアルなど各種マニュアルは見直しをしている。</p>	<p>・感染症対策や個人情報保護に関して適切な運営が行われており評価できる。今後も継続してほしい。</p>
<p>⑥施設設備 3. 8</p>	<p>○令和4年度は体育館のフロア張替、本館・体育館・実習棟のLED化、寮生入浴用のポーターの更新、寮1階と4階のトイレの洋式化を実施した。</p> <p>○教育目標達成のために必要な教材、看護師・助産師養成所の運営に関するガイドラインに示されている機械器具、模型等は整備(使用頻度が多い模型は破損が生じるため定期的に点検し修理や補填、基金の活用による購入)を行った。</p> <p>○効果的な学習(実習)に向けてDVDを7本購入し、講義はもちろん、学内実習となった際に活用した。</p> <p>○年間4回の図書整備を実施(学生と共に)し、令和4年度の不明図書6冊であった(前年度は15冊)。不明図書を含め学生の利用頻度の高い書籍を中心に次年度の予算要求を行い、更新した。</p> <p>○栄養実習室に学生が安価で購入できる自動販売機を設置している。麦茶や水など売り切れになる頻度が高い商品の販売個数を増やしてもらった。</p> <p>○意見箱の設置はしていない。</p>	<p>・設備の修繕が計画的に行われており評価できる。学生が学校生活を有意義に過ごす上で、より良い環境を目指し、引き続き適宜整備を進めてく。</p> <p>・学生の意見の聞き取り体制は、個別面談の他に匿名性を確保できる体制があるとよい。</p>
<p>⑦教職員の 育成 2. 2</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症対策を優先し教員研修の企画はできなかったが、web開催の研修会の受講を計画して全員が参加した。</p> <p>○県で教員養成の募集を行い、看護教員養成コース(長期研修)を2名が受講した。半面、育休を含め欠員が生じたため、マンパワー不足もあり、教員各々が参加した学会・研修会は6回(研修機会は減少)であった。参加した学会・研修会の復命を回覧し情報共有はおこなったが、伝達講習はできていない。</p> <p>○長期研修を修了した新人教員2名の研究授業は実施したが、教員の授業を他の教員が参加、講評できる仕組みをとっていない。</p> <p>○演習など複数の教員が入る授業については、教務会やクラスミーティングで、内容や方法など検討し、演習終了後には振り返りを行っている。振り返りの際の意見(助言)を基に、自身の教授活動を見直すことに繋がっている。</p>	<p>・現代の若者気質を踏まえた教育及び看護の魅力が伝えられるよう、教員も研修会に参加し研鑽を積む。</p> <p>・新人教員の研究授業はよい取り組みである。他の教員も授業参観を実施する体制を検討してはどうか。</p> <p>・専任教員の養成は引き続き課題である。</p> <p>・研修の伝達講習を行い、教員のスキルアップに繋げていく。</p>
<p>⑧広報・ 地域活動 3. 2</p>	<p>○ホームページのアクセス数が前年度より26%減であった(ホームページの更新回数が少なかったことも要因の一つ)。受験生が求める情報について、例年通りとしたが、一般的な内容であった。</p> <p>○主たる実習施設の院内実習指導者研修と鳥取県看護職員実習指導者養成講習会への講師派遣は、実習指導者育成に、実習施設への看護研究支援は実習施設の看護の質の向上にも貢献できた。</p> <p>○倉吉市のファミリーサポートセンター提供会員養成講座の講師派遣、助産学生による、地域(倉吉市と北栄町)で子育て中の母親や妊婦とその家族を対象とした健康教育の実施など、地域貢献活動にも繋がった。</p> <p>○入学生の確保に向けた広報活動は、③入学・卒業に掲載したとおりである。</p>	<p>・同窓会のホームページの開設など新しい試みもあり、今後も期待したい。</p> <p>・学校PRは、自治会活動やボランティアでも可能である。学生と教員が一丸となって広報活動のさらなる充実を図る。</p>

※評価項目の点数は、5よい 4ややよい 3普通 2やや不十分 1不十分 の総数を項目数で除した点数。